

中国手話の疑問文における口の動きの役割

リン・ハオ

(中国・復旦大学)

中国手話における口の動きの役割はこれまで議論されてこなかった。しかし、手話言語における口の動きの役割は、長い間注目されてきた。この発表では、中国手話の疑問文における口の動きを取り上げる。ここでは、疑問文とその背景にあるメカニズムによって表現される、記号の構造の異なるレベルにおける口の動きの機能の理解を試みる。分析の対象は、64名の被験者から上海で収集された自然発話のデータである。被験者はすべて中国手話の母語話者で、盲学校で教育を受け、年齢は20代から60代までである。総計15時間以上の99のクリップから収集された自然発話はELANを用いて注記され、1427個の極性疑問文と、630個の内容疑問文を含んでいる。

まず、すべての手話記号と口の動きは、収集された2057個の疑問文すべてに含まれていた。口の動きには手話記号に伴うものと、伴わないものの2つのタイプがあることを発見した。口の動きが、1つかそれ以上の手話記号に継続して共起する場合があることも観察できた。さらに、年齢と、文のタイプ、つまり極性疑問文と内容疑問文で相違がみられるかの分析も行ったが、若年層と老年層、極性疑問文と内容疑問文との間に重大な違いは見られなかった。

80%の手話記号が口の動きと共起しており、共起する口の動きの90%は、1つの手話記号と共起していた。疑問を表す記号については、そのほとんどが等価の口の動きを持っていることがわかった。主として、口の動きの機能は、形態音素論レベルのものであるが、統語レベルで機能しているものもあった。いくつかの特別な場合には、手記号を伴わない口の動きが、言語コミュニケーションにおいて疑問文を作ることがあった。ほとんどの中国手話の話者は、もしかするとバイモーダルなタイプに属しているかもしれないことが示唆される。つまり、口の動きは、補充的あるいは余剰的であるかもしれないが、中国手話の不可分の一部であるということである。しかしながら、基本的に中国手話は口の動きなしでは成り立たない。さらに、身振りと言語記号そして言語音が我々の言語の体系全体をなす3つの要素であると推論される。中国手話は、単に中国手話を主要な要素とし、それに音声中国語と身振りが様々な度合いで混ざり合った連続体であるに過ぎない。

参考文献

- Boyes Braem, P., & Sutton-Spence, R. (Eds.). (2001). *The hands are the head of the mouth. The mouth as articulator in sign languages*. Hamburg: Signum Press.
- Chen, Yijun (2014) Mouth actions in Taiwan Sign Language. In *Language and cognition: festschrift in honor of James H-Y.Tai on his 70th birthday*(ed.). Crane Publishing co. ltd.
- Enfield, N. J. (2009). *The Anatomy of Meaning. Speech, Gesture, and Composite Utterances*. Cambridge: Cambridge University Press.
- McNeill, David (2012) *How language began: gesture and speech in human evolution*. Cambridge University Press.